

# 平成22年度卒業時アンケート調査

田中 康一郎  
Koichiro Tanaka

九州産業大学情報科学部情報科学科  
Department of Information Science, Faculty of Information Science, Kyushu Sangyo University  
tanaka@is.kyusan-u.ac.jp, <http://www.is.kyusan-u.ac.jp/~tanaka/>

## 1. はじめに

カリキュラム全般および学習環境・設備改善の方策として、平成17年度から平成21年度に引き続き、平成22年度後期に卒業予定者を対象とした無記名アンケート調査を実施した[仲06, 仲07, 仲08, 田中09, 田中10]。本稿では、その実施内容と結果の概要を報告する。

## 2. 方法

### 2.1 調査項目

調査の対象として取り上げた項目は以下の通りであり、21年度からの変更はない。

- (1) 授業科目全般に関する平均的評価
  - a 専門科目の難易度と満足度
  - b 総合科学科目の難易度と満足度
  - c 外国語科目の難易度と満足度
  - d 教育内容全体の満足度
  - e 卒業研究の指導に対する満足度
- (2) 各授業科目について
  - a 興味を持てた/持てなかった科目
  - b よく理解できた/理解できなかった科目
  - c 将来役に立つ/立たないと考えられる科目
- (3) 学習環境・設備について
  - a ゼミナール室などの学習環境の満足度
  - b コンピュータ・ネットワーク環境全般の満足度
  - c 環境・設備面で気に入っている/気に入っていないところ
  - d 講義記録システムの利用目的
- (4) その他
  - a オフィスアワー制度の満足度
  - b 資格取得サポートの満足度
  - c キャップ制の可否
  - d キャリア支援センターの有効性
  - e キャリア支援センター運営委員の有効性
  - f 就職指導の有効性

### 2.2 調査方法

調査は、平成23年2月10日(木)までに、平成22年度卒業予定者95名を対象とし、Webで作成したオンラインの質問紙法(無記名アンケート)を用いて実施した。具体的な質問内容と回答選択肢は付録Aに示す。

## 3. 結果

回答数は94名、回答率は約99%であった。以下、調査の大項目毎に結果を紹介する。

### 3.1 授業科目全般に関する平均的評価

専門科目、総合科学科目、および、外国語科目の難易度を図1に示す。総合科学科目の最頻値が「やや平易」であるのに対し、専門科目の最頻値は「やや難解」となった。これは、去年度と同様の傾向である。いずれの科目群も「難解」の評価はごくわずかであり、全般的な講義の難易度に関しては特に問題はないと思われる。これらの傾向は平成17年度から21年度からほぼ変わっていない。

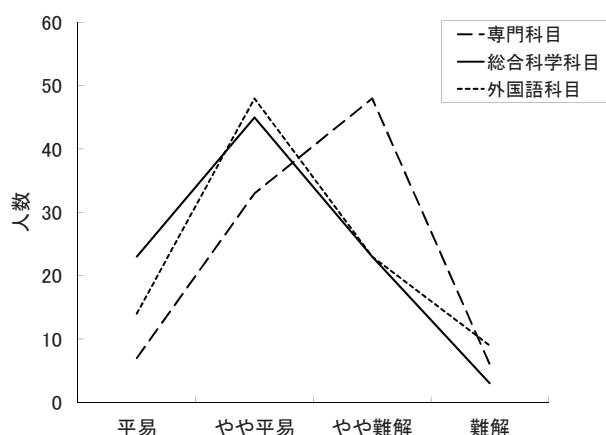


図1 講義の難易度

専門科目、総合科学科目、外国語科目、教育内容全般、および、卒業研究指導についての満足度を図2に示す。卒業研究以外は、ほとんどの学生が「やや不満」および「まあ満足」と回答しており、「まあ満足」が最頻値となった。卒業研究については、他の科目に比べて、「満足」の度数が高いことが分かる。以上の結果にみられる傾向は平成17年度から21年度と同様であった。

### 3.2 各授業科目について

興味をもてた/もてなかった科目、よく理解できた/できなかった科目、将来役に立つ/立たないと思う科目の集計結果を科目の開講年次別にそれぞれ、情報科学部の専任教員が担当している科目について表B.1~表B.4に示す。全体として、興味をもてた度数、よく理解でき

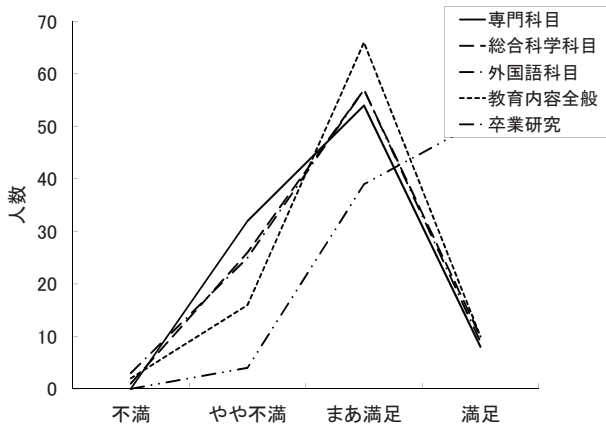


図2 講義の満足度

た度数、および、将来役に立つ度数には正の相関が認められる。また、興味をもてない度数、よく理解できなかった度数、および、将来役に立たない度数にも同様に正の相関がみられた。

各授業科目の評価結果は、例年とほぼ同様の傾向であった。1年次開講科目では、数学系の科目に対してプログラミング基礎や情報リテラシーなどの演習・実習系の科目の評価が高い。2年次開講科目は、情報回路設計、情報回路実験、および、情報回路といった実習・演習系のハードウェア関連科目とデータ構造とアルゴリズムⅠ・Ⅱといったプログラミング系の評価が高い。3年次開講科目は科目数も多く、評価が分散しているが、平成20年度に評価が高かった授業科目は、例年どおり高い評価を得ている。また、それらに加えて、新たに開講されたソフトウェア関連科目であるソフトウェア演習Ⅱとデータ構造とアルゴリズムⅢが高い評価を得ている。4年次開講科目では卒業研究の評価が高い。

平成22年度の結果は、平成21年度とほぼ同様の結果になった。表B.1～表B.4中の、b, d, fに比べてc, e, gが著しく多い科目に関しては、授業内容を検討する必要があると考えられる。

### 3.3 学習環境・設備について

ゼミナール室などの学習環境、および、コンピュータ・ネットワーク環境全般に関する満足度を図3に示す。両方の項目に関して、平成17年度から21年度と同様、ほとんどの学生が「まあ満足」または「満足」と評価しており、全般的に高い評価といえる。

「環境・設備面で気に入っている/気に入っていないところ」の集計結果を表1に示す。表の見出し行にあるc, dは、付録Aの(3)のそれぞれの質問項目に対応する。それぞれ、下記の意味である。

c: 環境・設備で気に入っているところは  
 d: 環境・設備で気に入っていないところは  
 表は、項目c「環境・設備で気に入っているところは」の度数でソートしている。貸与PC、ネットワーク、講義

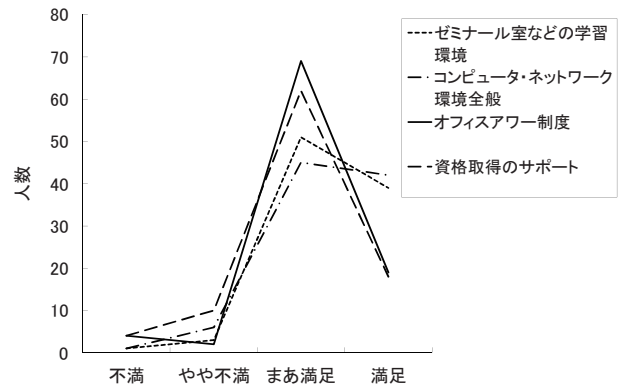


図3 学習環境・設備の満足度

記録システム、および、サポートセンターの評価が高い。一方、リフレッシュコーナーについては、「気に入っていない」という意見が年度毎に上昇しているため、改善をする必要があると考える。これらの傾向は平成17年度から21年度とほぼ同様である。

表1 環境・設備評価結果

	c	d
貸与PC	64	15
ネットワーク	59	3
講義記録システム	48	11
自習室	43	19
プリンタ室	40	7
サポートセンター	34	2
PC一時保管用ロッカー	20	19
リフレッシュコーナー	16	20
その他	5	20

講義記録システムの利用目的に関する集計結果を図4に示す。復習、レポート課題の確認、および、試験勉強がほとんどを占めており、講義後の学習に主に利用されていることが分かる。

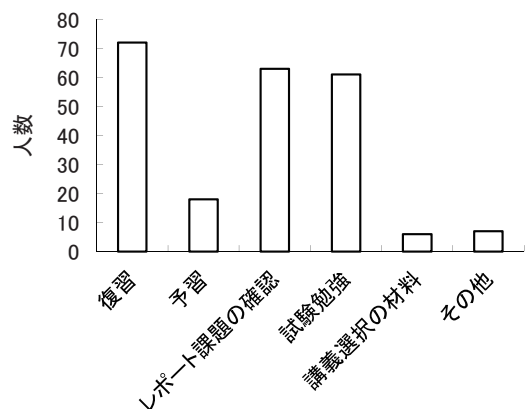


図4 講義記録システムの利用目的

### 3.4 その他

オフィスアワー制度、および、資格取得サポートに関する満足度を図3に示す。最頻値は「まあ満足」であるが、「満足」の度数が低い。これは、ゼミナール室などの学習環境、および、コンピュータ・ネットワーク環境全般に関する満足度と明確に異なる傾向を示している。これらの傾向は平成17年度から21年度と同様である。

キャップ制の可否と就職指導の有効性についてまとめた結果を図5に示す。キャップ制とは、履修申請できる単位数を制限する制度であり、計画的な履修を促す目的で運用している。平成19年度と平成20年度の卒業予定者に関しては半期で24単位、通年で48単位となっている。また平成21年度以降の卒業予定者に関しては、半期で30単位、通年で48単位となっており、以前の卒業予定者と比べて若干履修制限が緩和されている。キャップ制に関しては可が否を若干上回った。学生からみた場合は単位取得上の制約となるため否定されてもおかしくない。実際、否定した学生の理由をみると、興味のある科目をできるだけ多く履修したいという積極的な姿勢の意見と、留年が早期に確定してしまうという消極的な姿勢の意見が多数を占めている。しかしながら、肯定する学生が多数いることから、キャップ制の目的・趣旨が理解されていると思われる。

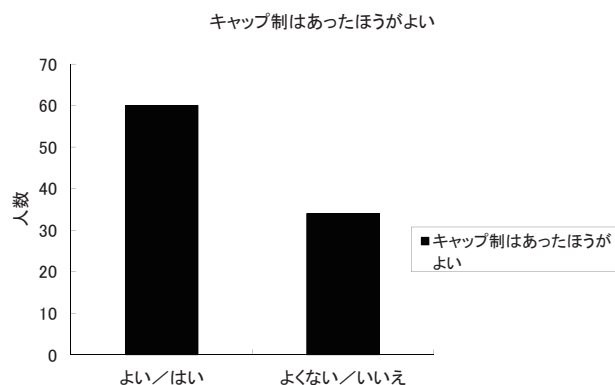


図5 キャップ制

教員による就職指導の有効性は、図6に示すグラフに明らかなように肯定されたと見ることができる。これらの傾向は平成17年度から21年度と同様である。他方、20年度の卒業時アンケート調査から追加されたキャリア支援センターおよび情報科学部キャリア支援センター運営委員についても、同様に大変有効であることが確認された。

## 4. ま と め

本稿では、平成17年度から21年度に引き続き実施した平成22年度卒業予定者を対象として実施したカリキュラムおよび学習環境・設備に関する調査結果を報告した。

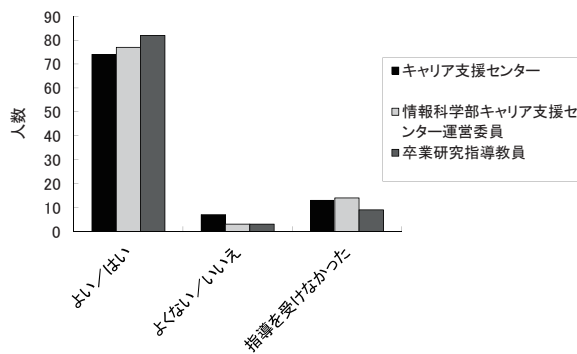


図6 就職指導の満足度

授業科目全般の難易度と満足度に関する評価は良好であった。また、学習環境・設備に関する満足度も高い評価が得られた。個別の授業科目に関して得られた評価結果、および、個別の学習環境・設備の順位付けデータは、今後の各授業、および、学習環境・設備の改善に役立てることができると思われる。

## ◇ 参 考 文 献 ◇

[仲 06] 仲隆：平成17年度卒業時アンケート調査，九州産業大学情報科学会誌，Vol. 5, No. 1, pp. 13-16 (2006).  
 [仲 07] 仲隆：平成18年度卒業時アンケート調査，九州産業大学情報科学会誌，Vol. 6, No. 1, pp. 37-41 (2007).  
 [仲 08] 仲隆：平成19年度卒業時アンケート調査，九州産業大学情報科学会誌，Vol. 7, No. 1, pp. 43-47 (2008).  
 [田中 09] 田中，仲：平成20年度卒業時アンケート調査，九州産業大学情報科学会誌，Vol. 8, No. 1, pp. 15-19 (2009).  
 [田中 10] 田中康一郎：平成21年度卒業時アンケート調査，九州産業大学情報科学会誌，Vol. 9, No. 1, pp. 15-19 (2010).

## ◇ 付 録 ◇

### A. 平成21年度情報科学部卒業時アンケート

実際に調査に用いた質問紙の内容を示す。項目中、[理由]、および、[記述]は自由記述欄が対応する。

- (1) 授業科目全般について
  - a 専門科目の講義の難易度を平均的に見ると：平易，やや平易，やや難解，難解
  - b 専門科目の講義方法を平均的に見ると：不満，やや不満，まあ満足，満足
  - c 総合科学科目の講義の難易度を平均的に見ると：平易，やや平易，やや難解，難解
  - d 総合科学科目の講義方法を平均的に見ると：不満，やや不満，まあ満足，満足
  - e 外国語科目の講義の難易度を平均的に見ると：平易，やや平易，やや難解，難解
  - f 外国語科目の講義方法を平均的に見ると：不満，やや不満，まあ満足，満足
  - g 教育内容全体を平均的に見ると：不満，やや不満，まあ満足，満足
- (2) 各授業科目について
  - a 卒業研究の指導については：不満 [理由]，やや不満 [理由]，まあ満足，満足
  - b 興味もてた科目は（複数回答）：情報科学序説，解析学基礎，解析学基礎演習，離散数学 I，離散数学 I 演習，情

報りテラシー, 情報リテラシー演習, 線形代数, 線形代数演習, 日本語基礎, 物理学, 物理学演習, 離散数学 II, 離散数学 II 演習, プログラミング基礎, プログラミング基礎演習, 計算機アーキテクチャ, 日本語表現法, 現代自然科学, データ構造とアルゴリズム I, データ構造とアルゴリズム I 演習, 情報科学基礎実験, 情報回路, 情報理論・確率論, 工学的センスの基礎, 微分方程式, 微分方程式演習, データ構造とアルゴリズム II, データ構造とアルゴリズム II 演習, 計算機システム, 情報回路設計, 情報回路実験, 計算の複雑さとオートマトン, 統計学, 認知科学, 情報技術者倫理, エンジニアリングエコノミー, 安全科学, インターンシップ, 計画数学, オブジェクト指向設計, データベース, オペレーティングシステムとシステムプログラミング, コンピュータネットワーク, 計画と管理, プログラミング言語とコンパイラ, コンピュータグラフィックス基礎, 知識工学, 社会情報システム学演習, 情報セキュリティ, 社会情報学 (特許/知的所有権), 経営情報学, 流通システム論, ソリューション工学, インターネット工学, 知能情報学演習, 人工知能論, 音声・画像/処理・理解, ヒューマンインタフェース, マルチメディア, 組込みシステム/VLSI 工学, 並列アルゴリズム設計, コンピュータグラフィックス応用, 卒業研究, 金融システム論, 交通システム論, 医療情報システム論, ソフトウェア工学, 情報システムプロジェクト管理, デジタル信号処理, 自然言語処理, 生物情報論, 工業デザイン, 感性科学, その他 [記述]

- c 興味もてなかった科目は (複数回答): 前問と同じ選択肢
- d よく理解できた科目は (複数回答): 前問と同じ選択肢
- e よく理解できなかった科目は (複数回答): 前問と同じ選択肢
- f 将来役に立つと考えられる科目は (複数回答): 前問と同じ選択肢
- g 将来役に立たないと考えられる科目は (複数回答): 前問と同じ選択肢

(3) 学習環境・設備について

- a ゼミナール室などの学習環境について: 不満 [理由], やや不満 [理由], まあ満足, 満足
- b コンピュータ・ネットワーク環境全般について: 不満 [理由], やや不満 [理由], まあ満足, 満足
- c 環境面・設備面で気に入っているところは (複数回答): 講義記録システム, ネットワーク, 貸与 PC, 自習室, プリント室, サポートセンター, リフレッシュコーナー, PC一時保管用ロッカー, その他 [記述]
- d 環境面・設備面で気に入っていないところは (複数回答): 前問と同じ選択肢
- e 講義記録システムをどのような目的で利用しましたか (複数回答): 復習, 予習, レポート課題の確認, 試験勉強, 講義選択の材料, その他 [記述]

(4) その他

- a オフィスアワー制度 (特定の時間に学生からの質問への対応のために, 教員が研究室に待機している制度) について: 不満 [理由], やや不満 [理由], まあ満足, 満足
- b 資格取得のサポートについて: 不満 [理由], やや不満 [理由], まあ満足, 満足
- c キャップ制 (半期毎で履修登録できる単位の上限があること: 情報科学部では 24 単位) はあったほうがよいですか: よい, よくない [理由]
- d キャリア支援センターの進路指導は役立ちましたか: はい, いいえ [理由], 指導を受けなかった [理由]
- e 情報科学部キャリア支援センター運営委員 (就職担当の教員) の進路指導は役立ちましたか: はい, いいえ [理由], 指導を受けなかった [理由]
- f 就職指導は役立ちましたか: はい, いいえ [理由]

B. 科目別評価結果

調査項目の「(2) 各授業科目について」に関する集計結果を表 B.1~表 B.4 以下に示す。表の見出し行にある b~g は、付録 A の (2) のそれぞれの質問項目に対応する。それぞれ、下記の意味である。表は、項目 b「興味を持てた科目」の度数でソートしている。

- b: 興味を持てた科目
- c: 興味を持てなかった科目
- d: よく理解できた科目
- e: よく理解できなかった科目
- f: 将来役に立つと考えられる科目
- g: 将来役に立たないと考えられる科目

表 B.1 1 年次開講科目

	b	c	d	e	f	g
プログラミング基礎	39	2	19	2	30	2
情報科学序説	19	5	11	0	7	8
情報リテラシー	17	2	10	1	11	2
情報リテラシー演習	15	2	9	1	7	2
計算機アーキテクチャ	14	0	10	1	8	2
情報科学基礎演習 I	14	2	7	0	3	3
離散数学 I	13	8	30	3	7	7
線形代数 I	12	7	22	1	2	5
情報科学基礎演習 II	8	2	5	1	2	4
微分積分 I	7	15	14	15	2	14
線形代数 II	5	4	12	0	2	3
微分積分 II	3	14	8	15	2	12
離散数学 II	3	5	12	3	1	3
基礎数学	1	11	3	9	4	8

表 B.2 2 年次開講科目

	b	c	d	e	f	g
情報回路実験	25	6	12	7	16	3
情報回路設計	24	4	13	9	14	3
ソフトウェア演習 I	21	1	11	0	16	2
データ構造とアルゴリズム II	20	1	15	4	19	4
情報回路	20	1	9	7	13	4
情報科学基礎実験	19	2	11	2	7	3
データ構造とアルゴリズム I	18	1	12	2	18	3
認知科学	11	7	2	9	3	6
計算機システム	10	1	5	2	6	3
工学的センスの基礎	10	0	6	3	4	1
現代自然科学	9	5	3	6	1	15
情報理論・確率論	8	3	8	6	7	3
日本語表現法	3	2	3	2	12	7
離散数学 III(A または B)	3	2	9	3	1	4
離散数学 IV(A または B)	2	4	5	8	3	5

表 B.3 3 年次開講科目

	b	c	d	e	f	g
インターネット工学	23	3	11	0	15	0
ソフトウェア演習 II	17	1	11	0	15	3
プログラミング言語とコンパイラ	15	1	9	1	10	1
データ構造とアルゴリズム III	14	1	7	2	9	1
データベース	14	3	9	1	13	5
情報セキュリティ	12	1	8	2	8	2
安全科学	10	3	6	4	12	6
エンジニアリングエコノミー	9	1	2	0	6	1
経営情報学	9	0	4	2	3	1
インターンシップ	8	0	3	0	10	1
社会情報システム学演習 I	8	0	2	1	4	2
人工知能論	7	0	1	0	2	1
コンピュータネットワーク	7	7	2	13	9	5
人工知能論	7	0	1	0	2	1
音声・画像/処理・理解	7	0	3	1	3	1
組み込みシステム/VLSI 工学	7	2	3	1	7	2
社会情報システム学演習 II	6	0	1	1	2	1
ソフトウェア工学	6	0	3	2	5	3
オブジェクト指向設計	5	7	2	6	8	4
アルゴリズム論 I	4	1	0	2	2	2
知能情報学演習 I	4	2	0	0	1	2
知能情報学演習 II	4	0	0	0	0	1
信号処理	3	0	1	0	2	2
ヒューマンインタフェース	3	2	2	1	1	1
オペレーティングシステムとシステムプログラミング	2	5	0	8	5	4
ソリューション工学	2	1	0	4	4	3
マルチメディア	2	0	1	1	2	1
計算モデル論	2	1	0	1	0	1
情報システムプロジェクト管理	1	1	1	1	5	2
計画数学	1	6	4	1	1	3
並列処理と分散処理	1	0	2	0	0	3
知識工学	0	4	0	5	0	2
アルゴリズム論 II	0	0	0	1	0	2

表 B.4 4 年次開講科目

	b	c	d	e	f	g
卒業研究	33	0	3	1	3	1
交通システム論	4	0	2	0	0	3
感性科学	1	1	5	0	13	0